

自動血球分析装置更新時に導入した BT-50 の当社の運用

◎宮田 莉子¹⁾、佐原 香穂里¹⁾、佐藤 文明¹⁾、水嶋 文乃¹⁾、木田 明¹⁾、余語 保則²⁾
株式会社 グッドライフデザイン¹⁾、トヨタ記念病院²⁾

【はじめに】登録衛生検査所である当施設は、隣設するトヨタ記念病院の検体やトヨタ自動車（株）を始めとする企業の健診検体を測定している。朝 7 時より測定機器の起動・精度管理試料測定を行い、7 時半頃から届く病棟検体を順次測定を行っている。しかし、様々な要因によりすぐに測定が開始できず外来診察前の結果報告が厳しい状況であった。この現状の改善を目的として、当施設移転を機にシスメックス株式会社製 XR-9000 と同時にバーコードターミナル BT-50 を導入した。今回、BT-50 について、当施設の運用・改善について報告する。

【運用】BT-50 に搭載されている機能を用いて以下の運用設定を行った。

- 精度管理試料の自動搬送機能を用い、朝と昼の精度管理試料測定を時間指定して自動測定する。
- Wake up 機能（決まった時間に装置を起動させる）を用いて朝機器が立ち上がっている状態にする。自動で立ち上がった後に精度管理試料が自動で搬送されるため、7 時に出勤した時点で測定準備が完了する。

- シャットダウン機能を用いて洗浄試薬の搬送から装置の電源 OFF までを自動で実施できる。シャットダウン実行前に次回の Wake up 設定を確認できるため状況に応じてスケジュールを変更。

【改善点】BT-50 内に保管された精度管理試料の測定可能残数が全号機数を下回ると自動搬送されないため、精度管理試料は少なからず残ってしまう。残った試料は終了時の測定や再検時のマニュアル測定で使用することで無駄をなくすことができた。

【まとめ】BT-50 を導入したことにより、機器起動時・シャットダウン時の工数削減効果が得られた。また測定開始時間の超過がなくなり迅速な結果報告を行うことができたようになった。実際に使用して感じた要望点が細やかな視点で挙げられたが、それらが改善されることによって更なる利便性が期待できる。

株式会社グッドライフデザイン ラボラトリー事業部
0565-25-3165